

標本棚

私

と

害虫

私と蚊

大分大学医学部 客員研究員
マヒドン大学熱帯医学部 客員准教授
江下 優樹

中学・高校時代の私はいわゆる昆虫採集少年であった。福岡県内の英彦山・障子岳などの野山を駆け巡り、採集した甲虫類を標本箱に整理して「北九州昆虫趣味の会」主催の展示会に出品したこともあった。当時使っていた保育社の昆虫図鑑は私の書棚に今もある。

縁あって農学部でミツバチ研究室に入ったが、蚊の魅力にとりつかれて、ローヤルゼリーを蚊に与えて吸血することなく産卵する実験結果をまとめて卒論にさせていただいた。この研究が私の最初の論文となった。

その後、縁あって東京に残り、医科研究で研究生となったのがきっかけで、帝京大学、長崎大学、久留米大学、そして大分大学での研究と教育に、四十二年間過ごした。



蚊の魅力にとりつかれた後、蚊が媒介する感染症に興味は自然と移った。蚊が媒介するウイルス病、ウィルスに感染した蚊にも自然免疫が備わっていることなど、魅力的な研究では、多くの方々に支えられて行うことができた事を感謝したい。

二〇一五年三月に定年退職したが、若手研究者育成のために、複数の大学に籍を置かせていただき、北海道、関東、九州、およびタイ国を訪問している。元気な間はもう少し頑張ってみようと思っている今日この頃である。

マダニ図説作成裏話

兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授
山内 健生

我が国では、二〇一三年一月に重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者が確認されて以降、マダニ類についての社会的な関心が高まっていないほどに高まっている。そのため、早急に初心者向けのマダニ図説を作成する必要性を感じていた。

私がそのような出版物を頭に描いていた二〇一四年の秋、ダニ仲間の高田歩さんが撮影した多くの素晴らしいマダニ写真が目の目を見えそうにないことを知り、同定に役立つマダニ図説を高田さんと共同で作ることになった。マダニ類が生きている時の体色は種を見分けるために有用であるため、カラー写真を無料で掲載できる『ホシザキグリーン財団研究報告』を投稿先に選んだ。

私は二〇一四年十二月から急遽イギリス出張となったので、原稿の執筆はロンドン南方に位置するケンブリッジのホームステイ先で行なった。

手違いでロンドン自然史博物館に収蔵されている参考文献を閲覧できず、しかも慣れないイギリス生活の合間を縫っての執筆だったため、原稿は遅れに遅れてしまった。時には、夜なべする私にホストマザーが手作りのお菓子を差し入れてくれることもあり、英国の地でも人の情に触れたのであった。

このような執筆作業を経て、「日本本土に産するマダニ科普通種の成虫の図説」は出版された。私にとって思い出深い著作物である。



タネガタマダニ
Ixodes nipponensis
の雌成虫

No.38の「標本棚」、北岡先生の文中、ブッチハエの写真説明の学名の綴りに間違えがありました。正しくは、*Cordylobia anthropophagas*です。訂正しお詫言申し上げます。

私と詩

桑原 滝弥

誰かと口喧嘩をした後、ふと、少し言い過ぎたかな、と反省をする事がありま

す。相手は今頃、どんな気持ちになっているだろうかと思えます。そこで、相手の心を想像して、自分なりに代弁をしてみます。「あんな事言われてショックだったよ」とか、「はっきり言ってくれて、ありがと」とか、「もう、あんたの顔なんか見たくもない」とか。実は、これが『詩』への第一歩なのです。喧嘩という例を出しましたが、要は相手(対象)の身になって、心の声を聴こうとするという事です。

誰でもいいんです。家族。友人。同僚。恩師。店員。通行人。何かちよつとも自分の心に引っかかる所があったなら、彼や彼女の声にならぬ声に耳を澄ませて

予感

女流画家 堀 桂子



は早めに出向いたのである。宴会の準備のためか、白いテーブルクロスがかけられた机の上に皿やコップ等が花と共に置かれていた。

「やあ、苑子さん、早川から別れたことを聞いてビックリした。あなたの携帯のアドレスは誰に聞いたと思いますか? 早川のお姉さんですよ。」(ああ、そうだったのか) 夫の姉とだけは何度か連絡をとっていた。村井は、燦然と銀のようにいい年を重ねて、澄んだまなざしは変わらないうえに鋭く、もつと思慮深くもなっていた。すでに長髪ではないが、達観した穏やかな精神世界を感じることができた。

「早川に会って行かれたらどうですか?」村井のさりげない心を感じた苑子は、一堂に並べられてある作品を観てから帰ることにした。村井が「近いうちに食事をご一緒しましょう、ご連絡します」と苑子の肩越しに叫んだ。もつと以前に村井と再会していたらなあと思う苑子だった。心が乙女のように疼いていた。

初めて村井に会ったのは、浩介と苑子が結婚して間もない頃で四十年前も前のことである。長髪で風来坊のような格好の村井の優しい澄んだ目は忘れられない。その後すぐに村井はスペインに渡ったと夫から聞いていたが、便りもないまま過ぎて、村井のことは夫婦の間の話題にもならなかった。

(あの村井さんが...)時の流れがいちどきにドツと苑子を包んだ。会場に着いた時は、まだ午後のざらつく日がさしていた。別れた夫も来場することが予想され、合いたくないので苑子

【作者から一言】

趣味が高じて女流画家に。故郷のペンクラブ所属。随筆、詩、小説など執筆して投稿。日々の出会い、ふれあいなど全てが作品の糧に。そんな毎日です。

【問題】 次の20の四字成語の中に、人名が2つ混ざっています。それは何番と何番ででしょう。番号でお答え下さい。

- | | |
|---------|---------|
| 1、食虫植物 | 2、害虫駆除 |
| 3、冬虫夏草 | 4、擬宝珠虫 |
| 5、扁木喰虫 | 6、手塚治虫 |
| 7、虫取撫子 | 8、昆虫標本 |
| 9、仙台虫喰 | 10、玉虫海気 |
| 11、細目虫食 | 12、猿金花虫 |
| 13、和気広虫 | 14、虫様突起 |
| 15、昆虫採集 | 16、有翅昆虫 |
| 17、虫歯予防 | 18、虫籠格子 |
| 19、瓜金花虫 | 20、孫太郎虫 |

回答

と

むしくいず



神屋流「博多道場」田町店
港区芝5-22-5 タムラビルB 1
電話03-6459-4048
営業時間
ランチ(月~金) 11:30~14:00
ディナー(月~木) 17:00~23:30
(金) 17:00~05:00
(土・祝) 17:00~23:00
(日) 定休日

九州料理の居酒屋
神屋流「博多道場」田町店



今回のご紹介は、JR田町駅・都営地下鉄三田駅から徒歩二分、港区芝五丁目にある九州料理の居酒屋、神屋流「博多道場」田町店です。
東京レストランツファクトリーのチェイン店で、調味料・食材など、すべてを九州産にこだわって、客席のカウンターの目の前に大綱を張り、左右の壁面には、串焼きと焼酎の人気番付を配したインテリアが話題の居酒屋です。スタッフは常に日本男児の心意気にこだわり「男気・活気・清潔・清々しさ」を接客の信条として、お客さまに「楽しんでいただく」ことに徹し、その「接客道」を追求する雰囲気は、まさに道場を感じさせます。
もちろん、接客以上に料理の質と味へのこだわりは深く、単品・コースなど、どのメニューを頼んでも、すべてが美味しいのです。そこにお酒が加われば、左党にはこの上ない至福の一時が訪れ、日頃の疲れやストレスなど、たちまち雲散霧消。明日への英気が養われること間違いありません。道場を名乗っているにも、それはあくまでお店で働く人たちの信条。堅苦しさなどみじんもありません。気軽に飲み、食べ、おまけに気づぶの良さが味わえるのですから、リピーターが多いのも納得です。忘年会シーズンも間近。ぜひ一度、道場への門を潜ってみてはいかがでしょうか。

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014 東京都港区芝2の23の4
アベックス産業㈱内 APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切は平成28年2月末日(当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。
★前号の正解と当選者(順不同)
正解は『天道虫(てんとうむし)』でした。
当選者: 平野和子、山崎正、山田麻里の3名様です。